

# ハンドボール



日本ハンドボール協会公式記録用紙

## No. 7

No. A (16名用)

スローオプテーム

A	宮崎県	大分県	B
合計	28	29	合計

大会名	第67回国民体育大会 九州清流国体		
H.24年	10月9日(火)	場所	飛騨高山公園アリーナ
種別	少年	男女	回戦 第 回戦 準決(3決) リーグ

A 北林 健治 7m TC 平井 徳尚 B

A 宮崎県	警告	退場	失格	チームタイムアウト	
				前半	後半
役員A				10	19
役員B					28
役員C				得点	
役員D				前半	後半
1					
2		X		T	F
3					
4					
5					
6				E	T
7				T	F
8					
9				F	
10				F	T
11					
12					
合計				17	11

B 大分県	警告	退場	失格	チームタイムアウト	
				前半	後半
役員A				3	16
役員B					27
役員C				得点	
役員D				前半	後半
1					
2					
3					
4					
5				E	F
6				T	
7					
8					
9				T	F
10					
11				T	正
12					
合計				13	16

タイムキーパー 西田 愛奈 スコアラー 上林 大悟

マッシュバイザー サイン 越後 義明 審判員 サイン 杉山 寛政 審判員 サイン 又野 宗彦

背番	結果	前半		得点	結果	背番	後半		得点	結果	背番
		時	間				時	間			
10	1	0	35			6	18	0	49		
6	2	1	33			7	19	1	38		
9	3	2	10				4	38	14	11	
10	4	2	55			7	20	4	50		
8	5	3	10			6	21	5	44		
		3	16		①	2	22	6	31		
10	6	4	05				6	41		①	
		5	51		①	10	23	8	03		
9	7	6	05				8	38		S	4
2	W	6	47			10	24	9	06		
		7	27	1	6		9	51	15	5	
		8	16		①	7	25	10	14		
2	S	9	22				11	25	16	3	
		9	39	2	11		13	09	17	4	
	①	10	44				14	38	18	11	
9	8	12	09				16	15	19	9	
		12	36	3	5		17	05	20	9	
6	9	13	25			9	26	18	04		
2	S	13	53				18	17	21	5	
		15	07	4	5		19	09	22	11	
		15	39		4	①	19	32			
7	10	16	14				20	03	23	9	
		16	27		5	2	21	21	49		
		16	43		W	3	22	24	28		
6	①	17	09				24	45	24	①	11
		18	25	7	6		25	54	25	5	
6	12	19	08				26	25	26	11	
		19	35	8	9		26	59	27	5	
2	13	20	15				27	44		①	
		20	27	9	11		28	11	28	6	
9	14	20	35				28	58	29	11	
10	S	20	38			①	28	59			
		21	41		①	5					
6	15	22	38								
7	16	23	26								
		24	25	10	9						
		26	06	11	5						
		26	26	12	8						
2	17	27	23								
		28	07	13	5						
17 - 13											

### 28-29

特記事項

## ハンドボール

ぎふ清流国体ハンドボール競技

## 結果報告

No.6

大会名	第67回 国民体育大会 ハンドボール競技				
競技日	10月9日 (火)	試合記号	A7	回戦	3位決定戦
種別	少年男子	会場	飛騨高山ビッグアリーナ		
A (都道府県名)			B (都道府県名)		
宮崎県			大分県		
得点合計	小計		小計	得点合計	
28	17	前半	13	29	
	11	後半	16		
		第1延長 (前半)			
		第1延長 (後半)			
		第2延長 (前半)			
		第2延長 (後半)			
		7mTC			

## 【 戦 評 】

記載者氏名 大森久司

準決勝24対21で山口県に敗れた宮崎県と、31対28で地元岐阜県に敗れた大分県という九州対決となった。激戦が予想される中、大分県のスローオフで試合開始。先制したのは、宮崎県10番久保選手のポストシュート。続いて6番津山選手のロング、9番中村選手の速攻、10番久保選手技ありシュート、8番中岡選手による5連続得点となり、3分16秒に大分県は早々とタイムアウトを申請。その後、大分県は6番恩塚選手が渾身のカットインで1点を返すも、7mスローを2本外すなど、チャンスがつかめない。9分16秒に平井監督は、クロスプレーを指示。これにより、宮崎県2番吉永選手が退場となると、大分県6番恩塚選手のカットイン、11番井上選手のミドルシュートが決まり10分44秒に宮崎県のタイムアウトを引き出した。その後、勢いを取り戻した大分県は試合開始7分後、7対0のスコアを、11対7の4点差までつめ寄るも、3本目の7mスローを外すなどチャンスをつかめず22分過ぎには、再び16対9と7点差となる。しかし、再び平井監督の熱い指示がとび、9番三浦選手、5番佐藤選手、6番恩塚選手が気持ちに答え反撃。宮崎県2番吉永選手のロングシュートを許すもののディフェンスを固め、17対13の4点差に追いつき前半を終了した。

後半、宮崎県からのスローオフ。すかさず北林監督から6番津山選手に指示がとび、見事にロングシュートが決まると、7番勝田選手の速攻が続き、良いスタートを切った。6分41秒、宮崎県はタイムアウトを申請。以後は、一進一退の展開となる。11分28秒大分県3番光吉選手、4番村山選手が速攻を決めると、11番井上選手のポストシュート、9番三浦選手のサイドシュートと速攻で、5連続得点を挙げ、試合の流れを呼び戻し、19分に宮崎県のタイムアウトを引き出した。その後も、大分県は宮崎県6番津山選手にマンツーマンをかけるなど果敢に攻撃を続け、一時ついた10点差を3点差まで追い上げる。対する宮崎県も9番中村選手のカットイン、2番吉永選手のミドルシュート、速攻でリードを守ろうと必死に対抗する。しかし、大分県は11番井上選手が7mスローと速攻を決めると、5番佐藤選手も2連続得点を挙げ、1点差にまで追い詰める。28分15秒、自らタイムアウトを申請した大分県は、28分59秒に11番井上選手のサイドシュートでついに逆転に成功。残り1分、オールマンツーマンをかけた宮崎県を、死にもの狂いで守りきり、29対28で勝利した。諦めない心がドラマを生む最高の勝ち方であった。